



すてきな写真がズラリ

「ボランティアをして、『ありがとう』といわれる瞬間が好き」と、活動のやりがいを話してくれたのは、WEVOの

草野さんは、「にじいろみらい基金はNPOなどの法人格をもっていないので申請でき、念願だった写真展を開催できた」とよさこんでいます。今後は、人と人とのコミュニケーション

頃、NICUで入院中、元気な現在の写真を提供してもらい、パネルを作成しました。(写真左) 一般の来場者からは「感動した!」という声や、子どもがNICUに入院中の方からは「不安が和らいだ」という声が寄せられました。



# にじいろに輝く みらいを

世界早産児デーイベント(11月17日)の撮影会で



次の活動に向けて企画中!

**基金について詳しくはこちら**

応募団体募集中!

児童福祉はこちら

ボランティアはこちら

寄付で応援!



代表を務める七野由佳梨さん。また、メンバーの馬屋原有里さんは、「障がいがあっても、あいづちや伝え方を工夫することで一緒に遊びを楽しめることを実感。自分が成長できた」と、ボランティア活動の魅力を語ります。

## 頑張る団体を応援!

ほかに、基金では福祉農園の運営や小学校への防災授業の実施、市町村社協主催のボランティア体験プログラムも支援しています。

また、児童養護施設等の子どもを対象とした大学進学支援や、就職支援なども行っています。

各地域で多様な取り組みが広がることで、誰もが暮らしやすい社会になるよう、これからも頑張る団体を幅広く応援していきます。

府社協では、未来を担う子どもたちやボランティア・福祉団体などの活動をサポートするために、さまざまな寄付者の思いをかたちにする「にじいろみらい基金」を運営しています。今回は、令和4(2022)年に基金から助成を受けたキラリベビーサークルと関西大学準登録団体WEVOに話を聞きました。

## キラリベビーサークル

キラリベビーサークルでは、悩みをゆつくり話せるような交流会の実施や、母子健康手帳とあわせて使う小さく生まれた赤ちゃんを支援するサブブック導入の実現など、当事者に寄りそった取り組みをすすめてきました。

## 孤独を抱える家族の居場所に

「小さく生まれた赤ちゃんのいる家族の居場所をつくりたい」。このように話してくれたのは、2500g未満で生まれた子どもやその家族を支援するキラリベビーサークルで共同代表を務める草野可南さん。自身も950gで子どもを産んだ経験をもつお母さんです。

## 厚生労働省の調査によると、令和元(2019)年における2500g未満で生まれた子どもの割合は9.4%。その多くが十分に成長する前に生まれ、NICU(新生児集中治療室)での長期入院や退院後にも医療的ケアが必要になる場合があります。そのため、家族はさまざまな不安や悩みを抱えます。

「このくらい大きい赤ちゃんがこんなに大きくなること、早産児の存在を多くの人に知ってもらいたかった」と、草野さんは写真展に込めた思いを話します。

## 早産児を知ってほしい

基金からの助成金を活用し、世界早産児デーにあわせ、令和4(2022)年11月にドーンセンターで写真展と交流会を開催。ふらっと来た人も見てもらえるように展示の場所を工夫しました。子どもの写真はSNSで呼びかけ、28人のご家族が協力。生まれて間もな